

【長寿祝い・歳祝い・賀寿】

名称	年齢	基調色	由来・意味
■ <small>かんれき</small> 還暦	61歳		60年で十干十二支がひと巡りし、もとの暦に還ることに由来している。「本卦帰り（ほんげがえり）」ともいう。還暦祝いでは、赤いちゃんこを着用してお祝いするのが主流。60年で元の暦に還ることから、赤子に戻り、もう一度生まれ変わるという意味がある。
■ <small>こき</small> 古希	70歳		唐の詩人・杜甫（とほ）の詩句「曲江詩（きょっこう）」の一節「人生七十古来稀なり（=七十歳まで長生きする者は昔からきわめて稀である）」に由来している。昔は今よりも寿命が短かったため、70歳の古希を祝う風習が生まれたと言われている。
■ <small>きじゅ</small> 喜寿	77歳		「喜」の漢字の草書体が「七」が重なった形に見えることから「喜寿」と呼ばれている。中国発祥の還暦や古希とは異なり、喜寿は室町時代の日本から始まったと言われている。
■ <small>さんじゅ</small> 傘寿	80歳		「八十」を縦書きにすると、「傘」の略字「傘」に見えることから「傘寿」と呼ばれている。「八十寿（やそじゅ）」ともいう。傘寿のお祝いの色は、古希（70歳）・喜寿（77歳）と同じ紫色とする説と、米寿（88歳）と同じ濃い黄色とする説など諸説ある。
■ <small>べいじゅ</small> 米寿	88歳		「米」の漢字が、「八十」「八」を組み合わせた形になっていることから「米寿」と呼ばれている。「米の祝い（よねのいわい）」とも呼ばれる。
■ <small>そっじゅ</small> 卒寿	90歳		「卒」の略字「卒」が、「九」と「十」を組み合わせた形になっていることから「卒寿」と呼ばれている。『卒寿＝人生の卒業』というイメージをお持ちの方もいるようですが、そのような意味合いはありません。卒寿のお祝いの色は、白か紫とされている。
■ <small>はくじゅ</small> 白寿	99歳		「百」の漢字から「一」を引くと「白」に見えることから「白寿」と呼ばれている。白いちゃんちゃんこや、白い座布団などを贈る風習もある。
■ <small>ももじゅ ひゃくじゅ きじゅ</small> 百寿・紀寿	100歳		100歳のお祝いであることに由来している。また、百寿は1世紀を迎えたことに由来し、「紀寿（きじゅ）」と呼ばれることもある。
■ <small>ちゃじゅ</small> 茶寿	108歳		「茶」の漢字が、「十」「十」「八十」「八」を組み合わせた形になっており、これらを全て合わせると108になることに由来している。また、百歳以降の歳を「百〇賀（百一賀・百二賀・百三賀など）」と祝うので、「百八賀の祝い」とも呼ばれる。
■ <small>ちんじゅ</small> 珍寿	110歳		110歳は大変めずらしい長寿であることから、「珍寿の祝い」と呼ばれる。
■ <small>こうじゅ</small> 皇寿	111歳		「皇」の漢字が、「白（百から一をとった字なので九十九）」「一」「十」「一」を組み合わせた形になっており、これらを全て合わせると111になることに由来している。
■ <small>だいかんれき</small> 大還暦	120歳		60年で一周する暦が二周するため「大還暦」と呼ばれている。「昔寿（せきじゅ）」と呼ばれることもある。